

# I 調査の概要

## 1 調査目的

本調査は、県民の価値観や行動志向、行政への評価・要望など、県民生活の基本的な意識の経年変化を大きな潮流として捉えることにより、政策形成、施策運営の基礎資料を得ることを目的としている。

今回は、年次テーマを「ユニバーサル社会について」とした。県では、だれもが地域社会の一員として支え合うなかで安心して暮らし、一人ひとりが持てる力を発揮して元気に活動できる「ユニバーサル社会」の実現を目指しており、今回の調査結果は、平成17年4月に策定した「ひょうごユニバーサル社会づくり総合指針」を実効あるものとするとともに、県率先行動計画の改訂など、今後のユニバーサル社会づくりを進める上での基礎資料として活用する。

## 2 調査設計

- (1) 調査地域 兵庫県全域
- (2) 調査対象 県内に居住する満20歳以上の男女個人
- (3) 標本数 5,000人
- (4) 調査方法 郵送法（ハガキによる督促1回）
- (5) 調査時期 平成17年9月29日～10月25日
- (6) 県民意識調査懇談会

設問作成にあたり、県民意識調査懇談会を設置して、下記の学識経験者から指導・助言を得た。

小川 英一 ((財)兵庫県身体障害者福祉協会 理事長)  
片岡 實 ((福)ひょうご障害福祉事業協会 常務理事)  
北浦 かほる (帝塚山大学 教授)  
越川 正三 (関西大学 名誉教授)  
澤村 誠志 (県立総合リハビリテーションセンター 顧問)  
竹中 ナミ ((福)プロップステーション 理事長)  
立木 茂雄 (同志社大学 教授)  
鳥越 皓之 (早稲田大学 教授)  
吉田 三千代 ((株)サンケイリビング新聞社 情報企画部長)

[五十音順]

## 3 回収結果

回収数 2,537 (50.7%)

地域別標本数・回収数

地域	標本数	回収数	回収率	集計対象数	無効票
神戸	500	232	46.4	231	1
阪神南	500	207	41.4	204	3
阪神北	500	210	42.0	209	1
東播磨	500	268	53.6	265	3
北播磨	500	268	53.6	266	2
中播磨	500	220	44.0	218	2
西播磨	500	267	53.4	265	2
但馬	500	312	62.4	307	5
丹波	500	303	60.6	301	2
淡路	500	250	50.0	246	4
合計	5,000	2,537	50.7	2,512	25

※ 回収票のうち、白紙回答などを無効票とした。

## Ⅱ 調査結果のまとめ

### 1 「ユニバーサルデザイン」に対する理解

- 「ユニバーサルデザイン」という言葉の認知については、「言葉も考え方も知らなかった」が4割と最も多い。「言葉と考え方の両方を知っていた」は3割弱
- ユニバーサルデザインの考え方を「普及させるべきだ」は8割台半ばを超える

### 2 だれもが安心して住まい、安全・快適に移動できる「まちづくり」

- 安心して住むために重要なことは、「食事や介護サービスを手がるに利用できるようにする」、次いで「緊急時に医療サービスを受けられる施設を整備する」
- ユニバーサルデザインについてのまちの整備状況では、「車いすでも利用できるカウンターやテーブル」「ベビーカーや車いすでも利用しやすい区画の広い駐車場」「お金の投入や商品などの取出がしやすい自動販売機や券売機」で『整備されていない』が多い
- だれもが活動しやすいまちづくりに必要なことの上位は、「ノンステップバスや福祉タクシーを普及させる」、「気がるに休める休憩場所を設置する」
- まちで見かける特に問題がある「ひと」の態度は、「歩道に自転車を放置したり、商品などを陳列している」、「困っている人を見かけても、見て見ぬふりをしている」が上位

### 3 だれもがわかりやすい「情報」の提供

- 県が提供している印刷物に求めることは「文字を大きく読みやすくする」、「むやみにむずかしい言葉やカタカナ表記を使わない」
- 県のテレビ番組やビデオに求めることは、「字幕スーパーにより話の内容を表示する」が6割を超える
- 県のホームページを利用しやすくするために必要なことは、「必要な情報をすぐに見つけられるよう検索を工夫する」が最も多い
- 携帯電話による緊急情報を『利用したい』は、約7割

### 4 だれもが「働く」ことができる環境づくり

- 障害のある人とない人が同じ職場で働くという経験が「ある」は3割
- だれもが働けるようにするため企業などが取り組むべきことの上位は、「働く人の状況に応じて仕事をつくる」、「働く人の状況に応じて勤務時間を選べる制度をつくる」、「試行的に働ける機会を設け、状況に応じた仕事を見つけてもらう」
- だれもが働ける環境にするために県が支援すべきことの上位は、「就職希望者への職業紹介を充実する」、「障害の有無や年齢、性別などにかかわらず、ともに働く意識を育てる」

## 5 バリアのない社会環境づくりのための一人ひとりの行動

- バリアのない社会環境づくりに重要なことの1位は、「互いの個性や立場の違いを理解し、支え合う『ひと』の意識づくり」(29.7%)
- 身近でできそうことの上位は、「困っている人を見かけたら、声をかけ手助けする」、「電車やバスなどで、お年寄りなどに率先して席を譲る」、「隣近所のお年寄りなどに声をかける」

## 6 暮らし向きに対する意識

- 「向上している」と「同じようなもの」の合計は69.7%、「低下している」は26.5%で前年と同水準を維持している
- 『満足』（「満足」+「まあ満足」）は47.8%、『不満』（「やや不満」+「不満」）は32.5%と『満足』が『不満』を15ポイント程度上回り、前年と同水準

## 7 震災に対する意識

- 今後10年くらいの間には大地震が『起こると思う』が『起こらないと思う』を15ポイント程度上回る
- 『起こると思う』は、前年度調査から約3ポイント減少

## 8 県政への意識

- 『関心がある』（「大変関心がある」+「多少関心がある」）は71.0%を占めるが、前年度調査と大きな差はない
- 県政への評価は、「震災からの復興対策」「防災対策の充実」「国際交流や協力」「交通網の整備」「県政の広報・広聴」等で評価が高いが、「雇用の安定と職業能力の開発」「学校教育の充実」「病気の予防や医療施設の充実」等では努力が必要としている

#### 4 標本抽出および集計方法

- (1) 母集団 選挙人名簿登録者数(平成17年6月15日現在)に外国人登録者数から推計した外国人県民(成人)数を加えたものを母集団数とした。
- (2) 標本配分 地域ごとに500の標本数を都市規模別母集団構成比に応じて配分(合計5,000人)した。  
なお、外国人県民については、市区町ごとに、母集団(日本人+外国人県民)における外国人県民比率を計算し、各市区町の合計標本数(日本人+外国人県民)に、外国人県民比率を乗じ、外国人標本数を算出した。
- (3) 抽出方法
  - ① 第1次抽出地点として、平成12年国勢調査時に設定された調査区を使用した。
  - ② 各層で1地点内の標本数が10前後となるよう地点数を決定し、等間隔抽出法により調査地点を抽出した。
  - ③ 各地点における対象者の抽出は、住民基本台帳(一部の市町は選挙人名簿)から等間隔抽出法で抽出した。
  - ④ 外国人県民については、市区町ごとに外国人登録名簿等から無作為抽出した。
- (4) 集計方法 地域ごとの回収数について、全県内の母集団構成比を復元するよう重み付け集計をした。

#### 地域区分



地域名	該当市郡名
神戸	神戸市
阪神南	尼崎市、西宮市、芦屋市
阪神北	伊丹市、宝塚市、川西市、三田市、川辺郡
東播磨	明石市、加古川市、高砂市、加古郡
北播磨	西脇市、三木市、小野市、加西市、美嚨郡、加東郡、多可郡
中播磨	姫路市、飾磨郡、神崎郡
西播磨	相生市、龍野市、赤穂市、宍粟市、揖保郡、赤穂郡、佐用郡、宍粟郡
但馬	豊岡市、養父市、朝来市、美方郡
丹波	篠山市、丹波市
淡路	洲本市、南あわじ市、淡路市、津名郡

## 5 回答者のプロフィール

(1) 性別 (%)

	男性	女性	無回答
全  県	39.5	58.0	2.5
神  戸	33.8	63.6	2.6
阪神南	40.7	56.9	2.5
阪神北	44.0	53.1	2.9
東播磨	40.4	57.7	1.9
北播磨	45.9	52.6	1.5
中播磨	36.2	60.1	3.7
西播磨	46.8	52.1	1.1
但  馬	45.9	51.5	2.6
丹  波	45.5	53.8	0.7
淡  路	39.0	57.7	3.3

(2) 年 代 (%)

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答
全  県	8.6	14.5	15.3	23.6	19.1	16.6	2.2
神  戸	7.3	16.0	17.3	23.8	17.8	15.1	2.6
阪神南	10.8	16.1	17.1	21.6	18.7	13.3	2.5
阪神北	11.0	17.7	15.3	16.8	21.1	15.8	2.4
東播磨	7.6	11.3	15.8	31.7	17.3	14.7	1.5
北播磨	5.7	12.1	10.9	27.4	22.6	19.9	1.5
中播磨	11.0	13.7	12.4	24.3	19.7	16.5	2.3
西播磨	6.0	12.9	13.6	24.1	21.9	20.0	1.5
但  馬	6.2	8.1	12.4	21.1	19.2	30.0	2.9
丹  波	7.7	11.3	9.6	18.9	20.2	31.2	1.0
淡  路	8.1	9.0	12.6	23.6	18.7	25.2	2.8

(3) 職 業 (%)

	自営・家族従業			勤 め 人				そ の 他			無回答
	農 林 漁業	商 工、サービス業	自由業	管理職	専 門・技術職	事 務 的 な 仕事	現 業 的 な 仕事	主 婦	学 生	そ の 他 の 無職	
全  県	2.3	5.7	1.9	5.4	6.9	13.5	12.7	26.5	1.5	19.7	3.9
神  戸	1.3	5.2	1.7	6.9	8.2	15.2	9.5	27.7	1.7	18.6	3.9
阪神南	0.0	6.9	2.0	6.9	6.4	13.7	13.2	25.0	2.0	19.6	4.4
阪神北	1.0	3.8	0.5	8.1	8.6	16.7	12.4	25.8	0.0	19.1	3.8
東播磨	1.9	3.0	3.1	2.6	4.5	12.5	14.3	30.2	2.6	22.3	3.0
北播磨	4.2	3.0	2.7	3.4	5.6	10.5	18.8	26.7	0.4	21.4	3.4
中播磨	1.8	6.8	1.4	2.3	8.7	12.4	14.7	29.4	1.8	16.1	4.6
西播磨	3.4	6.0	2.3	4.5	4.9	9.8	15.8	26.4	0.8	23.8	2.3
但  馬	9.1	13.0	2.6	2.9	5.2	8.1	12.7	14.0	1.0	26.1	5.2
丹  波	13.7	8.6	2.4	3.7	4.3	12.3	10.6	18.9	1.7	20.3	3.7
淡  路	15.1	9.8	3.6	2.0	3.3	11.0	11.8	22.4	0.8	14.6	5.7

(4) 世帯構成 (%)

	1人世帯	夫婦だけ (1世代)	親と子ども (2世代)	親と子と孫 (3世代)	その他	無回答
全  県	9.6	22.1	51.5	12.5	1.5	2.8
神  戸	13.4	20.8	55.0	7.8	0.4	2.6
阪神南	11.8	21.1	54.9	6.4	2.5	3.4
阪神北	5.3	31.1	49.3	11.0	1.0	2.4
東播磨	9.4	17.7	56.2	13.6	0.8	2.3
北播磨	6.8	20.3	44.0	24.8	2.3	1.9
中播磨	3.2	24.8	49.1	16.5	2.3	4.1
西播磨	8.7	21.1	42.3	24.5	1.1	2.3
但  馬	7.5	20.2	42.0	23.8	3.6	2.9
丹  波	8.3	21.6	39.2	26.2	3.3	1.3
淡  路	10.6	19.9	46.3	16.3	3.7	3.3

未既婚 (%)

	既 婚 (配偶者あり)	既 婚 (離別死別)	未 婚	無回答
全  県	70.2	12.8	14.6	2.5
神  戸	66.2	11.7	19.9	2.2
阪神南	67.6	16.2	12.7	3.4
阪神北	75.6	9.1	12.9	2.4
東播磨	75.8	9.4	13.2	1.5
北播磨	71.8	13.5	12.8	1.9
中播磨	70.6	12.8	13.3	3.2
西播磨	71.3	16.2	10.6	1.9
但  馬	72.3	14.0	10.1	3.6
丹  波	67.8	18.3	12.0	2.0
淡  路	66.7	18.7	10.2	4.5

(5) 家族構成 (%)

	乳児が いる世帯	幼児が いる世帯	小学生が いる世帯	中学生が いる世帯	高校生が いる世帯	65歳以上 の人が いる世帯	障害があ る人が いる世帯	あてはま ない	無回答
全  県	2.0	10.0	12.8	8.7	9.1	45.0	11.2	28.0	3.3
神  戸	1.7	8.2	10.4	9.5	7.4	43.3	10.0	28.6	3.0
阪神南	2.0	9.8	13.7	8.8	10.8	33.8	13.7	32.8	2.9
阪神北	1.9	12.0	13.9	6.2	10.0	43.5	8.1	28.7	2.9
東播磨	2.3	9.1	13.6	9.8	9.8	41.5	9.4	31.7	3.8
北播磨	1.9	13.9	15.4	7.5	7.1	55.3	9.8	23.3	4.1
中播磨	0.9	10.1	14.2	8.3	7.8	47.2	8.7	28.4	4.1
西播磨	3.0	13.2	15.1	9.4	12.8	57.0	18.5	18.1	2.3
但  馬	3.3	7.5	9.8	10.4	9.1	66.4	16.9	17.3	3.9
丹  波	3.0	13.0	13.3	9.3	11.0	67.1	17.6	17.6	1.7
淡  路	2.4	10.2	11.4	6.9	6.9	63.4	14.2	16.3	4.9

(6) 居住年数 (%)

	1年未満	1年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上 20年未満	20年以上	無回答
全 県	3.3	7.6	8.1	13.6	11.9	8.3	44.7	2.6
神 戸	3.5	10.0	10.0	16.0	16.9	10.0	31.6	2.2
阪神南	7.4	11.3	11.3	20.1	12.3	5.9	28.4	3.4
阪神北	2.9	7.2	9.1	17.2	9.6	12.0	39.2	2.9
東播磨	1.1	4.9	5.3	8.3	12.8	11.3	54.0	2.3
北播磨	1.9	4.1	6.4	7.1	6.8	4.5	66.9	2.3
中播磨	2.3	5.0	5.0	9.2	11.0	6.4	57.8	3.2
西播磨	1.5	3.8	4.5	5.3	6.4	4.2	73.2	1.1
但 馬	1.0	3.6	3.3	7.2	4.2	5.5	71.0	4.2
丹 波	0.7	4.0	4.0	9.0	4.7	5.0	71.8	1.0
淡 路	2.8	3.7	6.1	8.5	4.1	6.1	65.9	2.8

6 標本誤差

世論調査で無作為抽出法をとった場合は、数学的に標本誤差を計算することが可能であり、誤差の幅はサンプル数と得られた結果の比率などによって異なる。

今回の調査のサンプル数についての標本誤差の幅は、以下のとおりである。

(層化二段抽出、信頼度95%の場合)

誤差の算出式

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \sqrt{2 \frac{N-n}{N-1} \cdot \frac{P(100-P)}{n}}$$

〈例：サンプル数 2,537の場合〉

\* N：母集団 n：回答者総数 P：回答比率 (%)

回答比率 (%)	10% (または90%)	20% (または80%)	30% (または70%)	40% (または60%)	50%
誤差 (%)	±1.7	±2.2	±2.6	±2.8	±2.8